

# 2022 年度 服飾奨学金事業

## 終了報告



2022年度服飾奨学生13名の受給期間終了に伴う報告をいたします。

### 1. 主な奨学金の用途（生活費、学費、教材費等）

・主に学費に充てていますが、アルバイトで賄えなかった分の生活費や制作費に充てることもあります。

・大学の前期と後期の授業料に充てさせていただきました。奨学金を支援のおかげで今年度の授業料を半分以下に抑えることができました。

・定期代（実家と学校が遠く6ヶ月の学生定期が8万円を超えるので定期の購入費用の助けになりました。）

・制作材料費（10月にイタリアで発表させていただいたカプセルコレクションの制作材料費として使用しました。）

・教材費（日々の授業で使用する模造紙やシーティング等の購入としても使用しました。）

・主に生活費として使用していました。ひとり暮らしを始めたため、家賃の支払いや光熱費の支払いなどにつかっていた。

・いただいた奨学金は全て学費や教材費に使わせていただきました。特に私が通う大学では3年生から実技の授業が増え、服や作品を作るための制作費がかなりかかるため、この奨学金はとてもありがたいものでした。この奨学金があることで自分が作りたい作品をお金が足りないからと諦めず、自由に製作することができました。自分がやりたいこと、将来に繋がるようなことにすごく役に立ったと思います。

・一部を生活費や課題制作の材料費に使用し、残りは学費に使用させていただきました。

・生活費の補填、学費の支払い等に使用させていただきました。所属大学では三年生から臨地実習としてインターンシップへの参加が必須となっており、また卒業条件でもあることからアルバイトに割ける時間が大幅に減ってしまい、家計状況にもあまり余裕がないため、学費だけでなく生活費の補填としても使用しております。さらに所属大学のゼミ活動では校外学習があり、その際の交通費など、学習に必要な費用としても使用いたしました。生活費と交通費については、支給額36万円のうち、約16万円を使用しております。学費としては、大学四年生の学費の支払いが2024年1月～2月となっております。その際に、支払い金額に対する不足分をアルバイト収入で賄う予定でしたが、貴財団の奨学金を使用させていただ

きます。支給額 36 万円のうち、学費の支払いに約 20 万円を使用いたします。

・デジタルイラストデザイン授業費用、学校外活動として「クロー」という、3Dファッションデザインプログラム授業費用として使用しました。生活費としては食費と光熱費として使いました。

## 2. 主な進路で積極的に取り組むこと

・春からは鞆のデザインアシスタントとして働くので、初心を忘れずにまずは仕事や知識を「覚える」ことを積極的に取り組もうと思っています。興味が薄いとなかなか忘れてしまいがちなので、あらゆることやものに興味を持ち、常にアンテナを張って「覚える」「知る」ことに力を注ぐ一年にしたいです。

・今年の10月頃からイタリアのミラノにあるマランゴ二校への留学が決まりました。3月で現在通っている上田安子服飾専門学校は卒業しますが、留学までの半年間は卒業生として先生の授業アシスタントを行い、またアルバイトと語学の勉強に励み留学へ備えます。半年後から海外へ行くので日本でしか、地元でしか学べないことをたくさん学び、日本で生まれ育ったということへの誇りを持って海外へ出立できるように頑張ろうと思っています。

・大学では、来年度に行うショーの制作を開始し、衣装の制作を進めています。大学街では、自主制作に参加し、ヘアメイク、企画、モデルと、色々な役割をする機会がありました。それを生かし、来年度は、ショーの制作を進めていきたいと考えています。来年度は、インターンシップの参加を考えており、興味のある企業への応募をしたいと思っています。実際就職活動をするのは再来年となるとおもいますが、様々な事を経験しておきたいため、3年のうちから出来ることをしていきます。

・私は日本のファッション業界を支え、盛り上げるようなファッションデザイナーになりたいと思っています。この1年で進路について色々と考えましたが、やはり自分が育ったこの国に恩返しをしたいという思いが強くあることに気づきました。日本で活躍し、世界に日本の素晴らしさを伝える人物になれるように、進路を決めていこうと思います。自分がこの3年間で学んだこと、経験したことを生かして活動していきます。

・自分の夢を叶えられるよう、今自分の長所でもある誰とでもコミュニケーションを取れることを活かし、色々な人との繋がりを増やせるよう行動していきたいです。あとは学校での一つ一つの授業や課題をしっかりとこなし、いい作品を沢山作っていきたいです。

・宮城文化で学んだ服飾に関する学びを将来の職に就くために、2年間では習得できない難し

い技術を身に付けるべく、専門3年(ファッションスペシャリスト科)への進学を決めました。パタンナーに必要な知識を身に付け将来はパタンナーとして活躍したいと考えています。就活に積極的に取り組み、アパレル業界に貢献できるような人材を目指したいと思います。

・社会貢献に繋がるお仕事に就くことです。今までは消費者側としてSDGs や環境問題について提起していたことを、企業側になって問題解決に図りたいと思います。企業として取り組みを発信していくことで今まで見えていなかったことや新たな問題点に気づき、より社会的な意識が高めて環境問題の解決に貢献したいです。

・3年生になったら、夜間の授業に加えCADパターン科という専門科目を受講しようと思っています。やはり、学校を卒業後パタンナーとして働くには、今現場で実際に使われているCADでのパターンの引き方を習得する必要があると感じ受講を決めました。積極的に取り組みたいことは、アパレルCADの操作方法を学び、手引きよりも多くのパターンを引けるようになり、パターンによってどのように完成形に違いが出てくるか試しながら実感し、パターンの引き方を身に付けていくことです。また、2DCADだけでなく3DCADも授業内で使用できるとのことなので、今現場で必要とされる新しい知識や技術を身に付けていきたいと思っています。そして、服の制作にも励み、縫製のことを理解したパターンを引けるようになりたいです。

・次年度は大学四年へと進級するため、引き続き所属大学での学びを深めていきたいです。特に学びの集大成である卒業制作に注力し、日本の繊維産業や伝統色をテーマに取り組んでいきたいと思っています。さらに所属大学は新設の大学であることから、学内の活動や学生同士の交流が盛んではないため、その改善に向けて積極的に行動していきたいです。例えばサークルや学生会の新設、座談会の開催を検討しています。同じ服飾学生として頑張っている後輩たちに、何か残してから卒業したいと思っています。将来については、就職活動中のため確実な進路は未定ではありますが、今まで学んできたことを活かして繊維産業に携わりたいと考えています。日本の伝統的な物作りである繊維産業を未来にも残すべく、服飾学生として学んだ知識や、実際に繊維産地に足を運んだ際の体験をもとに、繊維やテキスタイルの魅力を広く発信していきたいです。国内のみならず、やがて海外にもその魅力を伝えていくことを目標にしています。私自身の将来のビジョンとして「未来に残したいものを人の手に届け続ける」を掲げており、日本の繊維産業や技術から生まれるテキスタイルを、後世に伝えていくことに貢献したいです。

・今後はネイリストになるために検定一級や更に上級まで取れるように頑張ります。また、技術的な進歩もですが丁寧な接客や日本語の上達も欠かさず励みます。

### 3.当奨学金を受給しての感想

・特にいま時期は卒業制作に励む中なのですがご支援のおかげで、制作費や制作時間を確保することが出来ています。可能な限りの行動をしても尚、苦しい生活を送っている学生や学生の家庭の味方だと思っております。ご支援をくださった全ての方に心からお礼申し上げます。

・母子家庭なので本当に助かりました、ありがとうございました。

・昨年度（2年生）まではアルバイトを掛け持ちし、制作費や通学費にあてており、学外での活動にあまり力を入れることができませんでした。今年度は貴財団の奨学金をいただくことができたので今までアルバイトで拘束されていた時間を制作や学校課題などへ有意義に使うことができました。

その結果今年度は6月の学内コンテストで優秀賞をいただき、また、7月にあった友人の結婚式のために制作させていただいたウエディングドレスとカラードレスはゼクシィ関西11月号に掲載していただきました。10月に地元亀岡市が主催するかめおか霧の芸術祭の一環である城跡芸術祭に招聘していただき作品を発表しました。同じく10月にイタリア、ミラノで行われた Fashion Graduate Italia においてカプセルコレクションを発表させていただきました。また複数件、依頼をいただき衣装制作や絵画制作と展示など、幅広く活動できました。

・今回の奨学金があったため、ひとり暮らしをする事が出来ました。もともと、通学時間が長い事が大学生活での悩みであり、大変なことの1つでした。しかし、奨学金を受給できたおかげで、ひとり暮らしを始めることが出来、通学時間を大幅に縮めることが出来ました。それにより大学によりいっそう力を入れられるようになっただけでなく、時間を有効に使えるようになりました。それが自主制作に繋がり、自分の活動範囲を広げるきっかけとなったのです。人脈や、経験、知識など色々なものを手に入れることが出来ました。来年度からも、続けてチャレンジし続けていきたいと思えます。

・私の家庭はひとり親で収入も少ないため、学費には頭を悩ませていました。大学に通ったのは自分の将来に必要なことを学びたかったからです。服飾というのは材料費などにお金もかかる上、課題も多いためバイトもたくさん入れるスケジュールではありません。奨学金もかなり条件厳しく、なかなか受給できる給付奨学金が見つかりませんでした。そんな時にこの奨学金を見つけました。こちらの奨学金では扶養者の収入を考慮していただけるため、本当に意欲があって生活費や学費に困っている人の手にきちんと渡るようになっており、素晴らしい奨学金だと思いました。他の奨学金と併用して受給できる給付奨学金はなかなか無いので、すごく助かりました。1年を通して制作費を気にせず自由に制作することができたことは、とても良い経験になったと思えます。1年間この奨学金を有意義に使うことができました。

・学びの機会が増え、将来の可能性が大きくなりました。奨学金を受給していなければ取得できなかった資格等を受験することができ、就活にも大きく役立つと考えています。当奨学金はたくさんの学生の可能性を拡大させ、アパレル業界で活躍する人材を育て、大きく社会に貢献すると思います。学びたくても学べない人たちがたくさんいる中で、いま私がこうして勉学に励むことができていることにとても感謝していると同時に、学べることの喜びを再確認したように感じます。

・2023年は物価上昇や円安などで家計への負担が多くなる年となりました。そんな中、御機関のご支援があり授業料の支出を大きく削減することができたため、家計を助けて頂きました。給付型の奨学金を受け取ったことは人生ではじめての経験なのですが、無償でご支援頂けることに有難さを感じとても恵まれた環境で勉強していることを実感出来ました。

・自分の夢を叶えるためにこのような服飾学生を対象とした奨学金をいただけて本当に嬉しかったです。学校卒業後もこのような支援をしてくださった人への感謝を忘れず自分の夢に向かって頑張りたいと思います。

・奨学金を給付していただけたことにより、3年生から専門科目を受講することを決断できました。より一層専門的な学びをすることができることに喜びを感じています。奨学金を給付いただき、誠にありがとうございました。

・所属大学の臨地実習について、合計600時間の実習が必須となっており、そのためにアルバイトに割く時間が以前より大幅に減ってしまいました。しかし貴財団の奨学金により生活費、学費を賄えるため、安心して通学を続けられたと思います。学業を疎かにすることなく、また授業を一度も欠席せず今日を迎えることができ、これは貴財団も含めて学生生活を応援して下さる方々のおかげで成り立っていることから、改めて大変有難く存じます。成績についても、最高評価であるS評価を取得しております。貴財団の奨学生として採用いただいたおかげで、学費や生活費をあまり心配する必要がなく、安心して勉学に励むことができました。また実習やインターンシップなど、将来に繋がる活動にも積極的に取り組み、学生らしく学びを深めることに集中できたと思います。授業や授業課題にも手を抜くことがなく、さらに皆勤で通学できた要因としては、奨学生である安心感が大きかったといえます。今回の奨学金をいただいた責任感と感謝を忘れずに、服飾学生として日々学んでいることに誇りを持ち、引き続き精進して参ります。この度は貴財団の奨学生に採用いただき、誠にありがとうございました。

・奨学金選考で私が選ばれるとは夢にも思いませんでした。正直とてもびっくりしています。今回の援助があったからこそ自分の時間ができて、作品や練習にも集中することができ

ました。私の当初の予定では学校が無い日はバイトに入り、生活など切り詰めないといけな  
いと考えていました。そんな生活をしている中ではコンテストにおいて受賞することは難し  
かったと思います。とても充実した学生生活を送ることができました。支援いただきありが  
とうございました。

・当奨学金をもらい、アルバイトをする時間を減らして課題をする時間と自己開発をする時  
間が増えました。日本で一人暮らしをしながらいろんな費用に少しは負担になった時期があ  
りましたが、良い機会で一年間の奨学金をもらうことができ嬉しです。良い機会をくだ  
さった当社の期待に応えます。未来の日本社会に役立つ良い人材に成長したいです。

#### 4.その他

・今年度、貴財団の奨学金をいただいたおかげで昨年度まではアルバイトを掛け持ちして疲  
弊していた時間を有意義に使うことのできる時間に変えることができその結果たくさんの経  
験を得ることができました。また、私の私生活面のことにはなりますが、昨年度母を亡くし  
身体と知的障がいのある兄と父の3人暮らしが始まったのですが、幸運なことに兄が地元の  
障害者支援のグループホームに入所することがで、母が亡くなるまでは母が主体となって行  
ってきた家業も父が上手く引き継ぐことができ、私は学校生活であまり関わることができ  
ていませんが、地元との繋がりを大切にしながら軌道に乗れているように感じています。今年  
の10月から海外へ留学させていただけることとなったので今まで以上に父に負担をかけるこ  
とが多くなりますが、負担よりも喜びを多く届けられるように頑張ろうと思います。

・もし意欲があり、生活費や学費を必要としている学生がいたら是非お薦めしたい奨学金だ  
と思いました。条件も少なく、必要な人がもらえる奨学金としてとても良い奨学金です。1  
年間お世話になりました。ありがとうございました。

・当奨学金の奨学生に選んでいただき本当にありがとうございました。この機会に得た学び  
を忘れず、将来社会に大きく貢献する人間になれるよう引き続き学業にはげみたいと思いま  
す。

・1年間にわたり、ご支援頂きありがとうございました。この御恩を忘れず、御機関に恩返し  
できるよう社会に貢献していきたいです。

・臨地実習のインターンシップとしては、三菱地所と中川政七商店による学生プロジェクト  
「アナザー・ジャパン」に参加しています。日本全国の地域産品や伝統工芸を学び、それら  
の商品の仕入れ・商談・店頭での販売を全て学生が行うプロジェクトです。インターンシッ  
プのため、以前のアルバイトで稼いでいた時期に比べると収入は大幅に減ってしまいました

が、日本の伝統文化や技術、小売業の店舗経営を深く学ぶことができました。学業に加えてアナザー・ジャパンへの活動にも注力し、その活動を通して様々な学びを得られたのも、学費を心配せずに済んだおかげだといえます。また学生生活を送るなかで、家族が体調不良に見舞われたり、家計がさらに苦しくなったりと色々な出来事がありましたが、奨学生であったおかげで学費については安心して勉学に励むことができました。母子家庭で、かつ妹が二人いるような状況でも安心して大学に通うことができ、心より感謝申し上げます。しかし経済状況が理由で、所属大学の海外実習には参加が叶いませんでした。将来はやがて海外でも仕事をしたいという目標があり、次年度では海外留学を目指しているため、これからも引き続き学業に励み、夢に向かって着実に進みたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

以上